令和元年度 第5回鴨川市国保病院運営協議会 会議録

日 時 令和2年2月10日(月) 午後3時30分から午後5時00分まで

場 所 鴨川市役所 4階400会議室

出席委員 8名

川崎浩之(会長)、本吉正和(副会長)、黒野 隆、永井光子、高梨利夫、
田村政彦、羽田幸弘、金高和江

欠席委員 2名

長谷川倫秀、金井 輝

事務局

市長 亀田郁夫

副市長 小柴祥司

経営企画部長 平川 潔、総務部長 増田勝己、健康福祉部長 牛村隆一

院長 林 宗寛、経営統括支援員 大橋恵子、

主査 吉田寛和、主査 吉田泰行、主査 浦邊彰紀

傍聴者 2名

会 議

1 開会

(事務局)

皆さん、こんにちは。

本日はご多忙の中、ご出席いただきありがとうございます。

定刻となりましたので、会議を始めさせていただきます。

はじめに資料の確認をお願いいたします。

(資料の確認)

本日の会議は、お手元の「次第」に従いまして、進めさせていただきます。

会議は、本市附属機関等の設置及び運営等に関する指針に従いまして、公開させていただいておりますので、ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

また、会議録作成のため録音させていただいておりますので、合わせてご了承ください。

はじめに市長よりごあいさつを申し上げます。

2 市長あいさつ

(市長)

皆様、こんにちは。

令和元年度第5回国保病院運営協議会を開催させていただいたところ、お忙しい中、ご出席を賜り誠にありがとうございます。

国保病院につきましては、去る1月8日に地鎮祭を執り行い、令和3年2月の新病院開院を目指し、着実に建設工事を進めております。

「災害時に市民を支える病院」として、また、市民の皆様の暮らしを支える「地域包括ケアの拠点」を目指すとともに、地方創生を推進する「小さな拠点」としても、しっかりと整備をまいります。

一方、ご存じのとおり国保病院は、厚生労働省から、再編・統合等の再検証が必要な424病院のひとつとして公表をされております。

しかしながら、医療機能の充実強化と予防医療にも取り組みながら、市民皆様の健康を守り、地域医療を推進する公立病院としての役割はますます重要となっていると考えており、開院の暁には必ずやその責務を果たすものと確信をしております。

また、この424病院に関連しまして、2月7日に公立病院の減床補助金活用対策に関する勉強会に出席をいたしました。その中で厚生労働省の課長から話がありまして、424病院の公表については、国の勇み足であったということをはっきりと言っておりました。

その理由ですけれども、公表に当たっては、がんの治療をしているか、心臓病の治療をしているか、といった高度医療をしているかということを目安としていたこと、また、大病院から20分以内であった場合にも、対象に入れてしまったこと。

ところが一方では、これからは地域包括ケア病床を増やし、この場合は亀田総合病院になりますけれども、3次救命救急センターと連携をしていくということも、厚生労働省の示す1つの道筋となっているわけです。

そういった中で、この424病院について、いくつかの指標だけで入れてしまったというのは、間違いだったと。もちろん1つの目安としてはあり得るとは言っておりましたが、国の方でも直していくということは、明言しておりました。

したがって、自分といたしましては、国保病院が目指しているところは、今の時代にあったものであるということを感じてまいりました。

本日の運営協議会では、安定した病院運営に向けて経営改善に取り組んでおります本年度の医業収支の状況と、この収支状況を踏まえて、新病院の完成年度であります「令和2年度病院事業予算（案）」、「新病院建設事業の進捗状況」等をご説明させていただきます。

議事の詳細につきましては、事務局より説明させていただきますので、皆様には、国保病院の運営に関し、それぞれのお立場から、建設的なご意見をいただきますようお願いを申し上げ、開会にあたっての、あいさつとさせていただきます。

(事務局)

ありがとうございました。

続きまして、会議に入らせていただきます。

本日、長谷川委員及び黒野委員から欠席のご連絡をいただいております。

只今の出席委員は8名となり、定足数に達しておりますので、会議の成立をご報告させていただきます。

それでは、鴨川市附属機関設置条例第5条第1項の規定によりまして、会長に議長として

進行していただきます。川崎会長、よろしくお願いいたします。

3 議事

(川崎会長)

それでは議長を務めさせていただきます。

議事が円滑に進行しますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

なお、本日の会議録の確認については、名簿順に高梨委員を指名しますので、よろしくお願いいたします。

これより議事に入ります、

はじめに、「令和2年度鴨川市病院事業会計予算について」を議題といたします。

事務局より説明をお願いします。

(牛村部長)

それでは、お手元の資料1-1と資料1-2を説明させていただきます。

初めに、令和元年度の国保病院の経営状況について説明をさせていただきますので、資料1-1と書かれた資料をご覧ください。

まず、「1 収益」についてですが、令和元年度は、一般会計から1億円の繰入金により運営を致しておりますが、この表では、その1億円の一般会計繰入金を除いた収益となっております。

前年度であります平成30年度と令和元年度の4月から12月までの9か月分の収益、そして、その差し引きをお示し致しております。

9か月間の合計の収益では、平成30年度は5億659万457円でしたが、令和元年度は5億7,432万5,177円。差し引きでは、6,773万4,720円の増、率に致しますと13.4%の収益増となっております。

これを1か月あたりで見ますと、平均増収額は前年比752万6,080円となっております。

次に、中段の「2 費用」でございます。

こちらも1の収益同様に、平成30年度と令和元年度の比較となりますが、合計欄をご覧ください。

平成30年度の5億8,048万1,457円に対し、令和元年度は6億5万4,590円で、差し引き1,957万3,133円。1か月あたりの平均増加費用は、前年比217万4,793円、3.4%の増となっております。

この結果、「3 収支」では、合計欄をご覧いただきたいと思いますが、平成30年度がマイナス7,389万1千円、令和元年度はマイナス2,572万9,413円、差し引きでは4,816万1,587円の増。

1か月あたりの平均収支改善額としましては、前年比535万1,287円となっております。

このように、令和元年度の4月から12月までの9か月間の収支は、2,570万円ほどのマイナスとなっておりますが、前年度と比較致しますと着実に収支の改善が図られております。

この主な要因でございますが、下段「参考1」のとおり、昨年2月から、急性期病床52床のうち、回復期病床の「地域包括ケア病床」へ8床転換。引き続いて、5月に16床、11月に24床、さらに本年2月には32床へと転換し、収益の増に努めてきたことによるものでございます。

なお、下段の右側には、「参考2」一般会計繰入金の額として、平成30年度の繰入金、そして令和元年度の1億円。令和2年度は、令和2年度病院事業会計予算（案）の説明の中で、改めてご説明をさせていただきますが、本年度の収支改善状況を踏まえて見込こんだ一般会計繰入金1億4,681万3千円を、参考までにお示しさせていただいております。

本資料の2枚目は、平成30年度の月別収支内訳、3枚目は令和元年度の4月から12月までの月別収支内訳を参考までに添付させていただいております。

以上、令和元年度の、国保病院の経営状況の説明とさせていただきます。

この資料1-1につきまして、資料1-2の説明の前に、委員の皆様からご質問などありましたら、お受けしたいと思います。よろしく願いいたします。

(市長)

2枚目を見ていただきますと、平成30年度は、収支で1億2,400万円の赤字になりました。今年は昨年度に比べて、ここまでで約4,800万円の収支改善が図られています。あとの3か月で例えば2,000万円くらいの改善をすると、去年と比べて7,000万円くらい良くなる可能性があります。

去年の1億2,000万円から7,000万円を引くと5,000万円です。5,000万円の赤字ですが、ここに国からくる6,000万円が入れば、プラスになるといった予想でやっています。

この中には先行投資で人を入れている部分もありますので、このまま3月まで、それから次の4月からの1年間を乗り切れればいけるかなど。

新しい病院ができればリース料がまた3,000万円くらいかかりますから、行ったり来たりで大変ですけども、資金繰り的にはどうにかやっていけるような見通しが立ってきたかなというところでございます。

(川崎会長)

説明が終わりました。質疑、ございますか。

(羽田委員)

今の市長のお話の中で、リース料が3,000万円くらいかかるということだったんですが、減価償却費もかなり伸びると思います。今の減価償却費とは全く違う数字になると思いますが、その辺りはどのようにお考えですか。

(市長)

減価償却費がいくらになるかはわからないですけど、ひとつ絶対にしなくてはいけないことは、資金繰りのために一般会計から持ち出さないということです。

そのことを第一としたときに、減価償却費というのは、損益上の数字ですが、リース料の場合はお金が出ていきます。ですから、リース料は払えるようにしたいと思っています。

償却については、プラスになった中からどうやって充てるかを考えなくてははいけません。が、減価償却費の全額をまかなっていくというのは、今は不可能です。

(羽田委員)

資金計画上は成立するけれども、将来を考えた場合には、それだけではちょっと難しいというところで、承知しました。

(市長)

財政調整基金も底をついてきていますし、社会保障費の増加など、いろいろな形で鴨川市の財政が赤字体質になっています。そこはそこで直さなくてははいませんが、そこからまたこちらに一般財源を持つてくることは避けたいと思っています。

(金高委員)

これからは、病院であっても介護予防が大切な事業だと思っています。その中で、この会計の中で介護予防はどこに当たるのか、どの項目に入るのかを教えてくださいたいです。

(牛村部長)

病院の主な収入といたしましては、医療の提供に伴う診療報酬のほか、介護報酬をいただく事業として、ケアマネージャーや介護ヘルパーが訪問して行うものがございます。

介護予防の事業費用がどこに入っているのかというご質問ですけれども、介護報酬の中に一部予防事業というのがありまして、ホームヘルパー事業の中で介護報酬を得ながら実施している部分があります。

しかしながら、現在は介護保険の対象とならない方の予防事業、あるいはフレイル予防という高齢者の虚弱予防などは、病院の事業費用の中には含まれておりません。

一方で、最近は理学療法士などを増やしておりますし、4月からは作業療法士という専門職も増やしてまいります。そういった中で、少しでも地域に向けて貢献できるように、介護予防の教室で講師をしたり、あるいはどうやったら健康に過ごせるかというお話をしたり、またあるいは体操の指導であったり、地域からご要望があれば極力出ていって、介護予防には取り組んでいきたいと思っています。

(金高委員)

ぜひ見える形でお願いしたいと思います。

(川崎会長)

ほかに質疑ございますか。

それでは、令和2年度鴨川市病院事業会計予算について、説明をお願いします。

(牛村部長)

資料1-2をご覧ください。

令和2年度は、新病院建設事業・第1期工事の完了年度として、令和3年2月の新病院開院に向け、着実に建設事業を進めるとともに、経営改善、経営の効率化に資するよう改革を推し進め、さらには、地域包括ケア体制の構築に取り組んでまいります。

このため、新病院建設及び開院準備に向けた事業予算を計上させていただくとともに、収支のさらなる改善、医療・介護の連携強化・充実、そして介護予防・フレイル予防、また地区社会福祉協議会と連携した地域ささえあい活動の一環として、病院ボランティア育成等に取り組むことに視点を置いて、予算を編成させていただいたところでございます。

この点を踏まえ、資料の1ページをご覧ください。

はじめに、第2条の業務の予定量でございます。

病床数は70床。その内訳ですが、一般病床52床のうち、新病院開院に向けて準備をしてまいりました回復期病床に位置づけられる地域包括ケア病床へ32床の転換が完了し、今後は、在宅復帰に向けた生活リハビリ機能の強化を図ってまいります。

年間患者数につきましては、「入院」は2万951人、1日平均57人を予定し、前年度当初予算比16.8%増、病床利用率も10%増の80%を見込ませていただきました。

また、「外来」は、年間3万4,926人、1日平均119人を予定し、令和元年度の実績ベースで見込ませていただきました。

次に主要な建設改良事業でございます。

建設改良費といたしまして、19億8,412万円。

これは、新病院開院に伴う医療機器及び新病院建設に係る工事費等の計上でございます。

第3条は、収益的収入及び支出の予定額でございます。

事業収支それぞれ、前年度当初比12%増の10億5,385万1千円と致したいものでございます。

次に、2ページになりますが、第4条は資本的収入及び支出でございます。

収入では、「1款 資本的収入」のうち、企業債、出資金、補助金の主なものは新病院建設に伴うもので、19億3,182万円でございます。

支出では、「1款 資本的支出」は、「1項 建設改良費」の病院建設に伴う事業費と「2項 企業債償還金」とを合わせ、19億9,264万8千円でございます。

これにより、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額6,082万8千円は、過年度分損益勘定留保資金4,957万8千円、過年度分消費税及び地方消費税・資本的収支調整額158万2千円、及び、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額966万8千円で補填させていただきたいものでございます。

第5条は、企業債に係るもので、起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還方法を定めるものでございます。

第6条は、一時借入金の限度額でございます。建設事業に係る前払い金等を考慮して、限度額を9億5,630万円と定めたいものでございます。

第7条は、予定支出の各項の経費の金額の流用することができる場合として、医業費用と医業外費用と致したいものです。

第8条は、議会の議決を経なければ流用することができない経費を、職員給与費と交際費と致したいものでございます。

第9条は、他会計からの補助金として、一般会計から病院事業会計へ補助を受ける金額を1億4,681万3千円とし、第10条の棚卸し資産購入限度額は、5,769万7千円と致したいものでございます。

次に、病院事業会計予算の実施計画についてご説明します。

4ページ「収益的収入及び支出」の「収入」ですが、「1款 事業収益」、「1項 医業収益」は、入院、外来、訪問看護等の収益の合計で、8億7,305万円。「2項 医業外収益」、「2目 他会計補助金」は、前ページの第9条でご説明させていただいた一般会計からの補助金1億4,681万3千円と、国民健康保険特別会計補助金50万8千円の合計額1億4,732万1千円となっております。

このうち、一般会計からの補助金1億4,681万3千円の内訳は、不採算地区病院に対する特別交付税分6,573万円、公営企業への繰り出し基準による企業債償還に係る利息分が77万4千円、新病院開院に必要な補填財源として、8,030万9千円でございます。この補填財源につきましては、起債対象外経費として、一般会計、病院事業会計との間で調整の上で、一般会計から繰り入れていただく費用でございます。

5ページの「支出」では、「1款 事業費」、「3項 特別損失」が3,182万6千円でございます。この特別損失とは、臨時的に発生する損失として、令和2年度において発生するものに限って計上させていただくものでございます。

これには、新病院開院に伴い、現病院の医療機器のうち、新病院へ移転せず廃棄する医療機器の撤去費及び除却損612万6千円のほか、医療機器移設費1,540万円、小型医療機器・備品移設費1,030万円などが含まれております。

次に、6ページになりますが、「資本的収入及び支出」では、「1款 資本的収入」、「2項 出資金」、「1目 出資金」が4億8,476万2千円。内訳と致しましては、市からの出資金でございますが、主なものは、新病院建設に伴う社会資本整備総合交付金1,626万9千円、合併特例債分3億8,290万円のほか、医療機器等に係る一般財源補填分等でございます。

7ページは、予定キャッシュ・フロー計算書でございます。

令和2年度の業務活動、投資活動、財務活動によるキャッシュ・フローは、資金減少額2,725万4千円を見込ませていただき、資金期首残高2億6,117万8千円に対し、資金期末残高は2億3,392万4千円になる見込みでございます。

なお、8ページ以降は、給与費明細書等を添付しておりますが、説明は省略させていただきます。

以上が令和2年度鴨川市病院事業会計予算案となります。

冒頭にご説明をさせていただきましたとおり、令和2年度は新病院開院に向けて、建設事業とそれに伴う事業費用を計上させていただいているところでございます。

(川崎会長)

説明が終わりました。質疑、ございますか。

(本吉委員)

30 ページ、「1 款 事業費」、「1 項 医業費用」、「1 目 給与費」が 6 億 6,202 万 5 千円ということですが、給与費を収益の 10 億 5,385 万 1 千円で割ってみますと、0.628 という数字となりました。

給与費の割合は、一番コアな数字だと思うんですが、先日市議会の 6 人でおみがわ医療センターを視察した時に、この数字が 0.46 という驚異的な数字であると伺ってきました。

ここが一番病院の経営を改善していく上で大切な所だと思いますが、その点はどうお考えでしょうか。

(牛村部長)

ご質問のとおり、令和 2 年度の予算案では、人件費の比率は 62%になります。今年度の当初予算の積算時は 70%でございました。

令和 2 年度が 62%となりましたのは、さきほど経営状況をご説明させていただきましたけれども、平成 30 年度よりも収支の改善が図られておりまして、診療報酬ベースでも増収が図られ、収益増になっていることが一因でございます。さらにこの点を踏まえて、来年度は病床利用率を 80%と見込み、収益を増やしていく。それによって全体の中で医業費用を抑えながら、人件費比率を下げたいと思います。

確かに経営の安定した医療機関においては、人件費の比率が 50%を下回る、これは理想的な状態であると思います。しかしながら、いきなり 50%を下回るところには至りませんので、計画的・段階的にということになるとは思いますが、その努力は今後もしてまいりたいと思います。

(羽田委員)

今回の予算については、新病院開院のため予算が膨らむ面はあると思いますが、開院の場面を考えますと、両方の病院が動いていないといけない、かなりの人手を要する、非効率的な状況が開院の前後にあるのではないかと思います。その影響はどのくらいあるのかというのを教えていただきたいです。それは多分単年度の問題になると思うんですが、その辺りのことを。

それから、出資金ですとか他会計負担金を考えますと、相当金額が増えるようですが、単年度の問題として、どのくらい増えているのかという点の説明をお願いします。

あと、人的な問題につきまして。引っ越しをしながら、新しい病院も古い病院も動いていなくてはいけない、そのほかかなり複雑な作業をしなければいけないという部分も想定されます。そうしますと、来年 4 月以降の人員体制が気になりますが、医師と看護師の確保対策の話はよく聞かれたんですが、この部分はどうなっているのでしょうか。2 月の開院の時にスタッフはどんな状況で、予定どおり全床稼働できるのかということも説明をお願いし

たいと思います。

(牛村部長)

まず、令和2年度限りの支出として見込まれる額をお答えします。予算書の5ページをご覧ください。「特別損失」につきましては、先ほどもご説明申し上げましたように、新病院の開院に伴って現病院の不要な医療機器の撤去費、除却費などが612万6千円、大型の医療機器の移設費が1,540万円、小型の医療機器、あるいは備品類の移設費が1,030万円などとなっております、これらが令和2年度に限って計上させていただいたものになります。

病院会計にこれらの費用を見られるだけの内部留保があれば良いのですが、現状、収支改善を図ってはおりますが、難しい状況でございまして、また起債の対象にもなりませんので、一般会計との調整の上で、繰り入れていただくという形を取っております。

このため、4ページ「医業外収益」、「他会計補助金」に1億4,732万1千円、ここから国民健康保険特別会計からの補助金などを除いて、3ページの9条にございますけれども、特別損失分も含め、1億4,681万3千円を一般会計からの補助金として計上させていただきました。

またその中には、新病院開院時に必要な看護師及び作業療法士4名分の人件費2,124万8千円も含まれております。新病院の開院は来年の今頃となりますが、その時点で人員を確保しようとしてもなかなか難しい面もございまして。

さらには、新病院における救急搬送の対応や、入院時の医療安全体制や衛生管理、感染症等にも対応する感染管理のトレーニングにつきましても開院前から行わなくてはなりません。したがって、万全を期して開院に臨むために、年度早々から人員を確保させていただきたいものでございまして。

この点に関しましては、収益改善にはすぐにはつながらない部分もございまして、新病院のための体制作りということで、保健医療参与の竹内公一参与や竹股喜代子参与とも相談をさせていただいて、当初予算に計上をさせていただきました。

そのほか、移転に伴う総合的なマネジメントを行う業務委託もございまして、これらも一般会計からの補助金を見ております。

こういったものが、新病院開院に向けて、単年度で必要な臨時的な支出でございまして。現病院は現病院で業務を進めていかななくてはいけない部分もありますので、人員を増とさせていただいて準備をしてまいりたいと思っております。

出資金につきましては、建設に伴う国からの交付金や合併特例債のほか、医療機器等の一般財源部分もありますけれども、主には新病院建設事業の財源ということでご理解いただければと思います。

(羽田委員)

あとでその金額をまとめた資料をいただけないでしょうか。

開院時にお金がかかるのは仕方ないと思っておりますので、その金額がわかれば、それを抜いて全体の枠が見えてきます。もちろん、開院のタイミングが2月以降ですから、令和3年

度にならないと本来の姿は見えてこないとは思いますが、とりあえず、今回膨らむ金額が把握できるようにしていただけたら。

それから、事務スタッフも様々な業務でかなり大変になると思いますので、そちらへの対応も考えていただきたいと思います。

あと単純な質問ですが、相対的に費用は上がっている中で材料費だけ下がっているのはなぜでしょうか。加えて、減価償却費の中には新病院の償却費用が載っているのかどうか教えてください。

(吉田(泰) 主査)

今回の当初予算につきましては、開院の年度ということで費用が膨らんだ部分があります。材料費は例年ですと、実績プラス 20%ほどを見込んで予算編成をしておりましたが、今回はこの部分を削らせていただいております。

また、新病院の減価償却費ですが、病院事業会計におきましては月割りで償却をしておりますので、令和 2 年度の予算には含まれておりません。

(金井委員)

32 ページの研究研修費に謝金があります。いわゆる非常勤医師の給与は、我々の病院の場合だと給与費に入っていますが、ここに入っているということでしょうか。

我々の項目で謝金というと、講演をしてもらったお礼ですとか、そういった内容で基本的に 100 万を超えることはまずないんですが、ここには給与が入っているということですか。

(牛村部長)

令和 2 年度から働き方改革の一環として、地方公務員法などが改正され、現在の非常勤職員の方々につきましても、新たに会計年度任用職員という制度となることから、市の中でもいろいろな調整が行われることとなりました。

その中で、正規雇用の医師とは別に、例えば千葉大学からあるいは君津中央病院から、半日などをお願いする医師がいます。定期的に決まって来ていただいている医師もいますが、そうではなく、向こうの病院、あるいは大学側の都合で派遣をいただく医師もおりますので、短期的な勤務ということで、謝金でお支払いをすることになります。

(金井委員)

会計処理上そのようにするというので、問題ないと。

(牛村部長)

こういった方については、富山国保病院も同様になります。自治体病院の中での取扱いということになるかと思います。

(市長)

市役所の方でも、市政協力員という方がいます。その方たちにお金を払っていたんですが、その方たちに払っていた人件費も法律で認められなくなってしまって、全部謝金という形になってしまいました。一般で考えると非常におかしいというのはあるんですが。

(金井委員)

給与費に入らないものもあるんですね。我々は非常勤の人に払ったものは全て給与費にしますから、給与費の比率に入ってきます。給与費比率から抜いて計算するのではなく、ほかと比べるのであれば、入れて計算するのが良いのではないのでしょうか。

(川崎会長)

一般のいう謝金とは解釈が変わってきますよね。行政上だと謝金となるかもしれないですけど、民間では謝金というと交際費になってしまうので、謝金ではない。

(市長)

これらを全部入れると人件費の比率は去年と変わらないです。これは給与の問題と合わせて、ベッドの稼働率などを全部上げる必要があります。おみがわ医療センターが40%代ということでしたが、全部入っているのかも調べないと比較ができません。

(金井委員)

今は大体54~55%くらいです。一昔前は50%というのがありましたけれども。どこまでを人件費の比率に入れるかという問題だと思います。

(本吉委員)

総務省の表彰を受けている自治体病院がありまして、九州の大牟田市立病院ですけれども、あそこは52%です。

(羽田委員)

減価償却費が上がるので、ここはあつという間に下がりますよ。新しい病院でお金が入ってくるようになって、人件費比率は下がります。それがどこまで下がるかは、減価償却費を出していただければわかると思います。

(市長)

いずれにしてもそれは利益を上げないといけません。

(川崎会長)

予算書を見慣れていない委員の方もいるので、もう少しわかりやすく噛み砕いたものを資料として作成するようにしたらどうですか。

(牛村部長)

これまでは、市議会に出す議案をということで委員の皆様にご提示してきたものです。

もしご理解をいただけるのであれば、ピッタリこの形というのではなく、方針や予算を示した1枚の概要版に変えさせていただきたいと思います。

建設事業なども入ってまいりますと、どうしても複雑になってしまいますので、ご理解をいただけるのであれば、変えてまいります。

(羽田委員)

変えるというよりもわかりやすいもの、概要を添付していただいた方がいいのではないのでしょうか。内容を精査するためには予算書は必要だと思います。

(川崎会長)

簡単に内容がわかるような概要書が作れると思うので、ぜひお願いします。

(本吉委員)

2ページ、第5条に、医療機器整備事業9,180万円とあります。これはどのような機器に対する起債でしょうか。これで足りない部分はリースになるという話も伺っておりますけれども、それはどのような医療機器でしょうか。

(牛村部長)

これまでも全体事業費が27億2,200万円とお示しをしてきましたが、令和2年度に医療機器等として予定をしてきた金額のうち、病院事業債の対象となる額をそのまま限度額として計上しております。

この主なものは、CTや手術用の機器、入院病棟で使用する機器などを予定させていただいております。

リースはここに当てはまらないものとして、今のところ、これまでも申しあげてきました金額では、年間3,800万円くらいを考えております。

今のところ、購入できるもの、購入した方がいいもの、あるいは移転するものということで、現病院の中で1,000点ほどはチェックしておりますけれども、まだ最終調整が必要な部分もあります。その中で当初見込んだ金額がこの医療機器整備事業の9,180万円となりますので、病院事業債の対象の限度として計上しております。

(本吉委員)

もう少し具体的にこの機械を買うというのがわかれば良いんですけども。

リースをせずに全部購入するとしたら、例えばこの間行ってきたおみがわ医療センターの場合は約8億円かかるとおっしゃってました。MRIだけで1億2,300万円と。

リースではなくもし買うとしたら、どのくらいかかるんでしょうか。

(牛村部長)

実際に購入する医療機器についてですけれども、大きく分けては手術室の関連、放射線や検査関連、外来関連、歯科関連、という形になってまいりますけれども、これらを概算で見た場合、リースにしないと約3億円の購入費が見込まれます。

医療機器と什器関連では、1億3,200万ほど見ているんですが、それ以外で3億円ということです。

(川崎会長)

ほかに質疑ございませんか。

それでは、お諮りします。

「令和2年度鴨川市病院事業会計予算について」は承認することに決定してよろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、承認することに決定いたしました。

次に、「鴨川市立国保病院建設事業の進捗状況について」を議題といたします。

事務局より説明をお願いします。

(牛村部長)

それでは、お手元の資料2をご覧ください。

昨年9月から工事が始まりました新病院の1期工事につきましては、資料の中段に記載されておりますように、令和元年12月末に旧・医師住宅を取り壊す先行解体工事を終えました。その後、令和2年1月8日に吉保八幡神社と建設現場にて安全祈願祭と地鎮祭が執り行われ、同日、建物本体の基礎杭設置工事に着手いたしました。

具体的には、大型杭打ち機による作業となりまして、下杭、中杭、上杭の3本を現場で接合し、1本あたり31mの杭を設置するものです。

作業は、先行して設置高までボーリングを行い、杭を下ろしながら建て込む工法で、順調に作業を進めた結果、2月3日に予定数量の61本の設置を完了しました。

お手元の資料の写真は、これらの作業を撮影したものでございます。

そして、2月7日からは、建物基礎部分の掘削を開始しているところでございます。

なお、2ページには、直近の工事工程表を添付させていただきました。

このあと、2月21日頃までに、第1工区と第2工区に分けた建物基礎部分の掘削も終わり、基礎躯体工事を4月中旬頃までに終える予定でございます。

そして、3枚目の資料は、全体工程表を添付しておりますが、いまのところ工事は順調に工程どおり進んでおりまして、年内の1期工事完成の予定でございます。

今後、4月以降、建物本体の躯体工事が本格化してまいります。委員の皆様には今後も定期的に進捗状況をご報告させていただきます。

以上でございます。

(川崎会長)

説明が終わりました。質疑、ございますか。

(永井委員)

新病院の下水はどのようになっているのでしょうか。病院と長狭学園の下水は午頭橋の方に流れていると思うんですが、引き続き今のものを使うのか、それとも新たなものになるのでしょうか。

(吉田(寛)主査)

現在使用しております浄化槽はそのまま使用いたします。交差点に近いところに、排水升がありまして、一般的な雨水や浄化槽からの流出水がそちらに合流しますが、新しい病院の下水に関しましても、そちらに合流することになります。

したがって、排水につきましては既設のものを使用し、新規に放流先を造るといったことは考えておりません。

(川崎会長)

質疑を終了いたします。

それでは、お諮りします。

「鴨川市立国保病院建設事業の進捗状況について」は承認することに決定してよろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、承認することに決定いたしました。

以上で議事は終了いたしました。

その他で何かありますか。

(大橋経営統括支援員)

お手元にオーラルフレイルと病院ボランティアに関する資料を配布させていただきました。

オーラルフレイルとは、高齢化に伴う口腔機能や噛む力の低下、衰えを言い、地域住民の皆様には当てはまるものでございまして、これを予防することが重要となります。

そして、このフレイルと病院ボランティアは、つながりがある事柄でもあります。

すなわち、病院ボランティアは、病院の中に地域住民の方に入っていただくという取組になりますが、ボランティアの方々には、こういった状態が高齢化に伴って発生してくる、その予防が必要だというお話をさせていただこうと考えております。

ボランティアの中には70代の方もいらっしゃいます。いずれこういったことに気をつけ

なくてはいけませんので、皆さんで勉強をしていこうということです。

ゆくゆくは、地区社協や民生委員の方がリーダーとなり、地域住民の方を対象に啓蒙活動を含めた勉強会などをしていただきたいと思いますとも思っております。

さて、口で噛めないということは、栄養が取れません。栄養が取れないということは、動けないということになります。フレイルの予防のためには、歯科だけではなく、医科も含めた多職種連携をしていかなければならないということです。

資料にもありますとおり、院内では、歯科、リハビリテーション科、栄養、看護のチームなどが連携して、1年ほど前からオーラルフレイルの予防に取り掛かっております。

ただ、外に出ていって啓蒙活動をするためにはどうしたら良いか、地域住民主導で何かできないかと考えたときに、病院ボランティアとして中に入ってきていただくことが、1つの手ではないかと考えたところです。

ボランティアについては、これまで2度ほど意見交換をしております、募集をするという案内をさせていただいております。これがフレイルなどの予防につながり、また医療費削減につながればということで進めているところです。

(本吉委員)

前の議会でフレイル問題について一般質問をしましたが、フレイルというのは虚弱という意味で、概ね65歳くらいから始まります。だんだん年を取って筋力が低下し、弱っていく様子がフレイルで、簡単に言いますと、健康と要介護の間の状態です。

身体には、①健康、②プレフレイル（フレイルの前の段階）、③フレイル、④要介護と4つ段階がありまして、フレイルにならないために大事ことは次の4点と言われております。

1点目は肉や魚をしっかり食べること。2点目はスポーツジムやカルチャークラブ、サロンなどで筋肉を鍛えること。一説には90歳を過ぎても筋肉は付くそうです。3点目は自ら進んで階段や坂道をあがること。最後に4点目がオーラルフレイルの予防で、定期的に、1か月に1回でも歯医者さんに行って、ものを噛めるように、タンパク質を噛めるように歯のチェックをしてもらうこと。

この4つをやるとフレイル、虚弱にならなくて快適な老後、幸せな老後が送れるそうなので、この4つのことを覚えていただきたいと思います。

(金高委員)

鴨川市全体、それぞれの地域で若返りのための事業をやるような形で進めていければ、一ボランティアとして応援したいと思っております。よろしく申し上げます。

(川崎会長)

それでは本日の議事はすべて終了いたしました。

議事進行にご協力いただきありがとうございますございました。

事務局にお返しします。

(事務局)

ご審議ありがとうございました。

最後に林院長よりごあいさつ申し上げます。

(林院長)

活発なご討議誠にありがとうございました。病院も基礎の杭打ちが終わったということで、これから新しい病院に向けて、我々も地域のプライマリーケアを担ってまいりたいと考えております。

また、鴨川国保は特に地域に愛されてきた病院だと自負しておりますので、これまで以上に立派な病院にしていきたいと思っております。

今後ともご指導ご鞭撻のほどをお願いいたします。

本日はありがとうございました。

4 閉会

(事務局)

それでは、最後に事務連絡をさせていただきます。

今年度の運営協議会は本日をもって、予定の会議を全て終了いたしました。

1年間ありがとうございました。来年度も引き続きよろしくお願いいたします。

なお、来年度の会議につきましては、現時点では未定ですが、早ければ5月ごろの開催を見込んでおります。

日程調整の上、皆様には事前にご案内をさせていただきます。

本日はお疲れ様でございました。

令和2年3月24日

会議録署名人 高 梨 利 夫